



TOGETHER
TOWN KOORI

とも にも に。

桃の花咲く美しい風景。

先人が育んできた歴史の面影。

そこには、桑折で暮らす人々の

英知が集まっています。

長い歴史を刻んできたのは、人。

そして未来を拓いていくのも、人。

今の桑折町を動かしていくのは、

ここで暮らすかけがえのない仲間です。

ともに。

私たちには、ともに歩んで育みたい

大好きなふるさとがあります。



町制施行60周年を迎えて



桑折町長
高橋 宣博

桑折町は、昭和30年1月1日に、田桑折町、睦合村、伊達崎村、半田村の1町3か村が合併し、現在の桑折町が誕生してから今年で60周年を迎えました。

この間、伝統ある歴史と文化、恵まれた自然環境を守り、さらに活力ある町に育て後世に引き継ぐため、町民の心と力を合わせ、まちづくりを進めてきた所であります。

しかしながら、平成23年3月11日発生した巨大地震とその後の原発事故は、家屋や道路の損壊など甚大な被害をもたらすとともに、加之、放射性物質による町土の汚染という町政史上まさに国難と御礼申し上げます。

いづき事態に陥りました。本町においては、いち早く桑折町総合計画「復興おこり創造プラン」を策定し、計画の着実な推進を図りながら、未曾有の大災害を克服し、やすらぎと希望に満ちた「こおり新時代」の実現に向け、一歩一歩、確実に復興・再生の歩みを進めてまいりました。発災から、3年10か月が過ぎた今、ようやく復興の穂音が皆様に届く所となった事は、町民の御理解と御協力の賜物と御礼申し上げます。

今後とも、すべての町民が復興を実感でき、生涯にわたって住み続けたいと思える夢と活力ある「ふるさと桑折」を力強く創造してまいります。

思えば「平成の大合併」の潮流に流されることなく、「単独立町」の道を町民皆縁とともに歩んできた事は、大変意義深く、加えて国難と言うべき事態に遭遇した今、その選択は、誤りでなかったものと確信しております。

「温故知新」(古きをたずねて新しきを知る)の度編んだの記念誌を通して、あらためて、本町の歩みに思いを馳せるきっかけになれば幸いです。そして、今日までの記憶と記録を風化させるとなく、しっかりと次代を担う子どもたちへ継承することで、先人からの「桑折のまっつくり」は引き継がれるものと信じてやみません。

結びに、町制施行60周年に臨み、先人に感謝を捧げ、未来人に夢を贈りたいと願っています。